

場面指導を授業「生徒・進路指導論」に取り入れた授業づくり ——愛知県教員採用試験2次選考で実施されている場面指導」を 事例検討として授業に取り入れて——

山本 信幸*

キーワード：ロールプレイングによる場面指導、生徒への対応、構想の3ポイント、生徒指導3機能、場面指導の過去問、生徒指導提要改訂、自己指導能力

教職課程科目「生徒・進路指導論」の授業において、学修内容の定着と応用を図るために、愛知県教員採用試験2次選考の個人面接で実施されている場面指導の過去問を事例検討として取り入れている。場面指導は課題に対して、2分30秒前後で、「目の前に児童生徒がいると想定した話」をするロールプレイングによる模擬授業である。教育現場経験もなく、教育実習前の学生にとって、場面指導に対応することは容易なことでない。

そこで、生徒・進路指導の理論や手法を応用し、場面指導の内容を構想する際に3つのポイントを生かさせている。その活動から自己指導能力を高めることができると考えている。

本稿では、生徒・進路指導論を履修（令和4年度春学期）した名城公園キャンパス10名の学生のアンケートと授業感想の分析を通し、場面指導を授業に取り入れた効果について論じる。

はじめに

愛知県教員採用試験の面接において学生たちが不安に感じているひとつに場面指導がある。どのような内容にすればよいのか、見通しすらできない、という不安な声を幾度も耳にした。本学での指導を担当して6年目、令和4年度の授業担当に「生徒・進路指導論」がある。その授業において、愛知県教員採用試験2次選考の個人面接で実施されている場面指導の過去問を事例検討として取り入れている。本稿ではそれが授業の効果を高めることができたのか否かを学生アンケートと授業感想の分析から検証する。

本稿は名城公園キャンパスにおいて、令和4年度春学期「生徒・進路指導論」を履修した学生10名のアンケート分析（任意提出であったが全員提出）と授業感想から、場面指

* やまもと のぶゆき 教職支援センター 本学非常勤講師

導を4回取り入れた授業を論じる。なお、本稿で教科書として使用している生徒指導提要(令和4年12月に12年ぶりにデジタル教科書として改訂)の内容などは改訂前の旧版である。

1 「場面指導」を授業内に取り入れる根拠

(1) 教員採用試験における場面指導と集団討論の過去問題

教員採用試験において場面指導と集団討論で出題された課題は以下の通りである。なお、愛知県の場面指導(過去3年間)のテーマは、本学日進キャンパスと非常勤で同科目を担当しているA大学の受験者から聞き取ったものである。実際に出題された際の表現とは微妙な違いがあるだろうが、課題の趣旨はふまえている。なお、名古屋市、岐阜県、三重県は共同出版「教員採用試験・過去問シリーズ」からの引用である。

【愛知県】2次選考・個人面接における場面指導のテーマ(構想30秒、発表2分30秒)

- ①校則を守らない生徒がいます。「守りなさい」と言ったところ、「こんな校則は意味がない」と言いました。あなたは担任として、学級全体にどのような話をしますか。目の前に生徒がいるつもりで話をしてください。(22年度)
- ②あなたの学級の保護者から「うちの子がライングループから仲間外れにされているから指導してほしい」と連絡がありました。あなたは朝のホームルームの時間にどのような話をしますか。目の前に子どもがいるつもりで話してください。(22年度)
- ③あなたの学級で「私語がうるさい」という訴えが何人もの生徒からあがっています。あなたは担任として、学級全体にどのような話をしますか。目の前に生徒がいるつもりで話してください。(22年度)
- ④コロナ禍にもかかわらず、学級でマスクをつけるのを嫌がってつけない子どもがいます。それを見た何人かの子どもは「どうにかしてほしい」と言ってきました。あなたは担任として、学級全体にどのような話をしますか。目の前に子どもがいるつもりで話してください。(22年度)
- ⑤コロナ禍で生徒の活気が低下しています。あなたは学級担任として、学級全体にどのような話をしますか。目の前に生徒がいるつもりで話をしてください。(22年度)
- ⑥MDMAなどの薬物使用が問題になっています。学級全体にどのような話をしますか。目の前に生徒がいるつもりで話してください。(22年度)
- ⑦あなたが担任する学級に、友達との人間関係に悩み、学校を休みがちの子どもがいます。

す。学級の中には、その子のことを心配している子どももいます。あなたは担任として、学級全体にどのような話をしますか。目の前に子どもがいるつもりで話してください。(21年度)

⑧学校近隣の住民から、「遊びながら歩いたり、横に広がっておしゃべりをしながら自転車を運転していたりと、大変危険で迷惑」という苦情の電話が入りました。このことを受け、各学級で指導をすることになりました。あなたは担任として学級全体にどのような話をしますか。目の前に子どもがいるつもりで話してください。(21年度)

⑨あなたが担任する学級では、4月から数か月が過ぎ、気の合った仲間だけでグループを作って行動することが目立つようになりました。その一方で、休み時間になると一人で過ごす子どもも見かけるようになりました。あなたは担任として学級全体にどのような話をしますか。目の前に子どもがいるつもりで話してください。(21年度)

⑩早朝に誰もいない教室に行ったら、背面黒板全体に特定の子どもの誹謗中傷するような言葉が書かれていました。また、その子の机の中にも悪口を書いた紙が何枚も入っていました。あなたは担任として学級全体にどのような話をしますか。目の前に子どもがいるつもりで話してください。(21年度)

⑪あなたは、夏休み前から不登校の生徒がいる学級の担任です。夏休み後に、生徒が久しぶりに登校することになりました。学級に対して指導してください。(20年度)

⑫担任をしているクラスの保護者から、「うちの子どもが悪口を言われている。学級の子どもたちには誰からの相談かを分からないように指導してほしい」と相談されました。あなたは次の日に学級でどのような話をしますか。(20年度)

【名古屋市】2次選考・集団面接における場面指導のテーマ

(構想1分、受験者4名が順番に発表1分)

①あなたは中学校2年生の担任です。職場体験の後の振返りの時間に、生徒に自分も人の役に立てるということを伝えるために、どのような話をしますか。(22年度)

②生徒たちが校外学習で使うものを班ごとに手分けして持ってくることになっていました。当日、普段から物忘れをよくする生徒が担当の物を忘れました。生徒たちがそのことを非難しています。そこで、あなたは帰りの会で生徒たちに話をすることにしました。どのような話をしますか。(21年度)

③高校2年生の担任です。修学旅行の班決めが思い通りにいかず、「班決めをやり直そう」と言う生徒がいて、学級全体の雰囲気が悪くなっています。その生徒に個別指導を行っ

た後、全体に話をします。目の前に生徒がいると想定して話をしてください。(20年度)

(引用：共同出版・名古屋市教員採用試験過去問シリーズ2023年度版)

【岐阜県】 2次選考・個人面接における場面指導のテーマ (構想3分、発表2分)

- ①中学校1年生の担任です。初めての定期試験の2週間前です。生徒たちにどのような話をしますか。(22年度)
- ②夜遅くまでメール等をしているのが原因で寝不足になり、学校で体調を崩す中学生が増えています。全校集会で、このことを取り上げてどのような話をしますか。(21年度)
- ③商業高校3年生の担任です。クラスの生徒Aさんは成績優秀で地元企業B社から内定をもらっていますが、自己主張のできない生徒です。ある日Aさんから「今まで誰にも言えなかったが実はプロのミュージシャンを目指しており、音楽の専門学校に行きたいと思っている。両親がB社を受けると言ったことに従ったが、まさか内定をもらえとは思っていません。B社の内定を辞退できないか」と打ち明けられました。両親には話をしていないそうです。あなたはどのように対応しますか。(20年度)

(引用：共同出版・岐阜県教員採用試験 過去問シリーズ2023年度版)

【三重県】 2次選考・個人面接においての場面指導のテーマ (構想と発表含め5分程度)

- ①担任しているクラスでA君がコロナにかかりました。それを噂で聞いたB君が、みんなのいる前で大きな声で「A君はコロナなのか」と聞いてきました。あなたはどのように対応しますか。(22年度)
- ②学級で休んでいる生徒がいます。別の生徒が「コロナで休んでいるのか」と聞いてきました。あなたはどのように対応しますか。(22年度)
- ③「文化祭に参加しない」とAさんが言うてきました。親も「文化祭は受験に関係ない」と言っています。あなたはどのように対応しますか。(22年度)
- ④部活動を休んでいる高校生のA君が、「前の部活の顧問の方がよかった」と言うてきました。あなたはどのように対応しますか。(21年度)
- ⑤あなたは養護教諭です。生徒が高熱を出しています。勉強が遅れると困るので早退しないと言っています。あなたはどのように対応しますか。(20年度)

20年度1次選考においての集団討論のテーマ (受験者7名前後、時間20分程度)

- ⑥ある児童生徒が学校行事に対する不満をSNSで発信し、それを見た他の児童生徒も同調して書き込みをしています。該当する児童生徒の保護者に話をしたところ、「子供たちは思ったことを発信しているだけで、何も悪いことはしていない」と言われました。

このような状況にどのように対応しますか。

⑦授業中に私語が多い生徒が数人おり、放課後、その中の一人に話す機会があったので、私語について注意したところ、「友達も喋っているのに自分だけ注意されるのはおかしい」と反発しました。その後、その生徒の保護者から「先生はひいきをしている」と訴えがありました。このような状況にどのように対応しますか。

⑧不登校であった児童生徒が2週間欠席せずに登校しています。養護教諭のあなたはその子の姿を見たので、「無理しないでね」と声をかけたところ、保護者から「子供が学校へ行くようになって私も喜んでいるし、子供自身も頑張っているのに、先生は不登校に戻りたいのですか」と電話がありました。このような状況にどのように対応しますか。

(引用：共同出版・三重県・教員採用試験 過去問シリーズ2023年度版)

(2) 場面指導の過去問と集団討論の傾向

過去問をすべて網羅している訳ではないが、本稿で取り上げた過去3年間(2022年～2020年度)26問(愛知県12問、名古屋市3問、岐阜県3問、三重県8問)を内容ごとに分類すると以下の通りである。

内容	設問数(割合)	設問
人間関係のトラブル	11(42%)	愛知④⑤⑦⑨⑫、名古屋②③、三重①②⑥⑦
授業・学習	3(12%)	愛知③、岐阜①、三重③
生活習慣・日常生活	3(12%)	愛知⑧、岐阜②、三重⑤
いじめ	2	愛知②⑩
不登校	2	愛知⑪、三重⑧
進路	2	名古屋①、岐阜③
その他(校則、薬物、部活)	3	愛知①、愛知⑥、三重④

- ・保護者及び第三者への対応 6問(26問中・23%)
- ・学級への全体指導の対応 愛知県全問、名古屋市全問、岐阜県2問
- ・個別の対応 三重県全問、岐阜県1問

課題として最も多いのが「人間関係のトラブル」(42%)であるが、これらは「いじめ」が想定される内容がほとんどであり、出題内容はいじめ未然防止といじめ発生後の対応を学級全体へ指導する事例が多数である。ところが、今年度8月(23年度採用)の受験者からの聞き取りで個別対応の場面指導の出題があったことを知った。それが、「不登校気味のAさんが母親と一緒に校門まで登校してきました。あなたは担任として校門で対応することになりました。どのように対応しますか」であった。学級全体への指導ばかりでは

く、個別対応の場面指導を授業に取り入れることも検討する必要がある。上述した今年度の出題においては保護者への対応をしなければならない。そこで、学生にとって保護者対応は未知の世界で難しい対応であるので、今後もコーチングスキル習得に力点を置く指導を続けたい。

また、場面指導と集団討論の違いは、目の前に児童生徒がいることを想定した模擬授業としてロールプレイングをするのが場面指導であり、集団で事例検討をする中からふさわしい指導のあり方を総意として見出すのが集団討論である。授業では、場面指導を通して自己指導能力を高めるためのステップとして、集団討論のよさを生かしたグループ討議の手がかりとして構想の参考とする段階と、構想から発表までを一人で行う段階に分けて場面指導をさせることにした。

2 研究の仮説と目標

(1) 研究仮説

授業内容として「場面指導」を取り入れるための研究仮説を以下のように設定した。

教員採用試験で実施されているロールプレイングとしての「場面指導」を「生徒・進路指導論」の授業で事例検討として取り入れることにより、学修内容の定着と応用を図ることができ、自分が教師になった際の生徒指導や進路指導の仕方を考えることができ、自己指導能力を高めることができるであろう。

(2) 研究目標

研究の仮説を受け、目標を以下のように4点考えた。

- ①場面指導の発表内容を構想する際、グループ討議で検討する段階と各自で考案する段階とステップをふむことで自己指導能力を高めることができる。
- ②生徒指導の3機能と構想の3ポイントを意識することで、学修内容の定着と応用を図ることができる。
- ③場面指導の様々なテーマに応じた対応を構想することで、教師になった際に生徒指導の仕方を想定する意識を高めることができる。
- ④発表する自信を高めることで、教員採用試験に臨む不安感を取り除き、受験への自信とやる気につなげることができる。

3 「生徒・進路指導論」の授業内容

(1) 公開されたシラバスにおける場面指導の位置づけ

*授業回数の右欄「場面指導実施の有無」は今回の論文のために追記

年度・学期	令和4年度春学期	
学舎	名城公園キャンパス	
科目	生徒・進路指導論	
テーマ	生き方に迫る生徒指導のあり方を求めて	
授業の概要	<p>教育現場において生徒指導を充実させることが、①自己の生き方の充実に役立つこと、②学校生活を豊かにする源になること、③道徳教育に役立つこと、④本学の精神「行学一体・報恩感謝」を育むこと、という4点と深く関わっていることを学ぶ。事例分析や問題解決シミュレーションなどを通して、生徒指導の進め方を検証することが授業の主な柱である。</p> <p>授業では、担当教員が体験した生徒指導上の事例紹介や授業実践の紹介、問題行動の事例分析、感性を育む絵本の読み聞かせなど、学校現場の実態に即した内容を多く取り入れ、キャリア教育の本質に迫る生徒指導のあり方を学ぶ。また、教員採用試験の面接で実施されている場面指導の対策を兼ねて、生徒指導上の対応の仕方を学ぶ。</p>	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導提要から生徒指導の意義や目標をとらえ、キャリア教育の要としての生徒指導の存在をとらえることができる。 ・学生による問題行動でのコミュニケーションや事例分析を通し、生徒指導の3機能である「共感的理解・自己決定の尊重・自己存在感」の重要性をとらえることができる。 ・生徒の心に響き自らの生き方に迫る教育相談の手法や生徒指導を意識した授業展開、その他の教育活動の展開に役立つことをとらえ、人格のよりよき発達をめざす生徒指導の推進に興味や関心を高めることができる。 ・教員採用試験の面接で実施されている場面指導の答え方をとらえることができる。 	
第1回	<p>「学校教育全体における生徒指導の意義」</p> <p>○学校現場における生徒指導の位置づけをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場の実態 ・生徒指導の意義 	
第2回	<p>「学習指導要領の方向性」</p> <p>○学習指導要領の各内容の概要をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂の方向性とポイント ・問題行動の早期発見 	
第3回	<p>「生徒指導と法律の関係」</p> <p>○生徒指導に関する法制度との関係をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法制度の内容 ・学校教育法 ・教員採用試験で出題頻度の高い法律問題 	
第4回	<p>「いじめ問題の事例検討」</p> <p>○いじめ問題の対応についてとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験で出題された内容の検討 	場面指導① 基礎基本
第5回	<p>「教育相談の進め方」</p> <p>○教育相談のあり方をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任が行う教育相談 ・保護者との関わり方 	

第6回	「場面指導における答え方」 ○教採の面接で実施されている場面指導の答え方をとらえる。 ・トラブル対応 ・担任として指導 ・場面ごとの対応の違い	場面指導② 授業対応
第7回	「楽しく分かりやすく知的な授業展開」 ○商業の授業において生徒指導を生かした授業展開をとらえる。 ・授業から生徒指導 ・学習指導案の書き方	場面指導③ 進路対応
第8回	「キャリア教育で育てたい力」 ○4領域8能力の内容をとらえる。 ・人間関係形成能力 ・情報活用能力 ・将来設計能力 ・意思決定能力	
第9回	「不登校と虐待の事例検討」 ○不登校と虐待の実態をとらえ、その対応を理解する。 ・不登校の実情と対応 ・虐待の実情と対応 ・関連機関との連携	
第10回	「各種トラブルとクレーマー対応①」 ○各種トラブルの解決とクレーマー対応について検討する。 ・校外での喫煙のトラブル	
第11回	「各種トラブルとクレーマー対応②」 ○各種トラブルの解決とクレーマー対応について検討する。 ・不登校 ・問題行動における退学	
第12回	「学生による思い出に残る恩師の発表」 ○生徒指導に役立つ教師像について検討する。 ・恩師の思い出 ・理想とする教師像	
第13回	「情報モラル教育・ICTの活用の進め方」 ○情報モラル教育の展開の仕方を検討する。 ・ICTの効果的な活用 ・SNSの問題点と利用法	
第14回	「いじめ事例の検討」 ○いじめ撲滅をめざす教育相談を検討する。 ・親への対応 ・学校の協力体制のあり方 ・個別の対応	場面指導④ いじめ対応
第15回	「今後の生徒指導の展望と教員採用試験における生徒指導の扱い」 ○学校現場における生徒指導の明確な位置づけをとらえる。 ・自己存在感、共感的人間関係、自己決定 ・感性を磨く読み聞かせ ○まとめレポート	

(2) 場面指導の授業内での位置づけ

事例検討として場面指導を実施する授業では、前半で教科書「生徒指導提要」と補助資料を通して、学修内容の解説を30分程度行い、後半で場面指導を60分程度行う。場面指導は、テーマの提示、各自構想、グループ討議による検討、代表者発表、担当者からの講評、学びの記述の順に行う。計4回の授業内容は以下の通りである。

- ・第4回（場面指導①基礎基本）→ 場面指導での発表や構想の仕方の基礎基本

- ・第6回（場面指導②授業対応）→避難訓練での取り組み態度への対応
- ・第7回（場面指導③進路対応）→授業を妨害するやる気ない態度への対応
- ・第14回（場面指導④いじめ対応）→生徒会の委員会決めにおけるいじめ対応

(3) 授業の実際

①【第4回（場面指導①基礎基本）】

授業前半は生徒指導提要と補助資料を通して、いじめの定義、いじめ防止対策推進法の内容と法律制定に至る大津いじめ事件の概要を解説した。後半は、初めて場面指導に取り組むため、構想の参考となるグループ討議を重視し、以下の点を配慮した。

- ・教採における場面指導の意図（ロールプレイングとしての模擬授業）を理解する。
- ・事例検討を通し、場面指導の構想（各自で構想をした後、グループ討議で他学生の構想を参考）をする。
- ・授業で学んだ「生徒指導の3機能」「いじめ防止対策推進法」「いじめ対応」を生かした発表構成にする。

各自で構想した後、その構想を受けたグループ討論を行った。課題のとらえ方や対応の仕方などを、グループ討論からとらえさせたかったからである。その後、指導ポイントを解説した。

愛知県採用試験高等学校2次選考で集団討論が行われていた際の過去問を提示した。

担任をしているクラスで、他の教師が授業をしている最中にうるさくしていた生徒Aに対し、生徒Bが、「うるさい。だまれ」と言ったことをきっかけに、生徒Bが生徒Aからいじめられるようになりました。さて、あなたはどのように対応しますか。

- ①自分なりの考えをまとめる（2分）
- ②各自が考えを発表する（一人2分以内）
- ③それぞれの意見に対して自由に話し合う（15分）
- ④話し合った結果、自分の考えを発表する（一人1分以内）

各自の考えを発表するのを2グループ（5名ずつ）で実施した。当初は緊張した様子であったが、グループ討議をする段階で、自分では気づかない視点の発表を参考にしようとする姿があった。その後、グループの代表者が討議し合った内容を受けて、指導の方向性を発表した。2グループの主な意見は以下のようなものであった。

- ・担当教師に話を聞き、A（いじめの指導）B（言葉使いの指導）をそれぞれ個別対応

し、クラス全体への指導は行わない。

- ・個別対応A(授業中の態度といじめの有無確認) B(いじめの内容確認)をした後に、クラス全体にも指導を加える。

これらの考えは、自分の経験であったり見聞きしたりしたことからの構想であり、授業の学修内容が応用されていない。つまり、学生の考えは、出題意図の把握をせず、生徒への対応が中心、「木を見て森を見ず」の指導方針である。その実態をふまえ、場面指導の構想の際に以下の3点を「構想の3ポイント」にするよう解説した。

- ・「出題意図は何か」を考えると→生徒の個別対応のみで回答するのではなく、担任としての危機管理(未然、発生時、事後)の視点からの回答が求められている。
- ・対応は生徒だけへの指導ではない→いじめに対する学校の指導方針、関係機関(この課題の場合は保護者)との連携、授業改善という3つの視点を意識する。
- ・「木を見て森を見ず」の方針は対処療法的→表面的な問題(生徒間のトラブルだけ)に対処するのではなく、将来に生きて働く学校改善のチャンスとしてとらえる。

この3つの構想ポイントを考慮して構想するよう、学修内容の振り返りとして生徒指導提要との関わりを解説した。

- ・出題者の意図→チームとして対応、生徒指導提要「第6章生徒指導進め方・チームによる支援 P128～」の解説
- ・対応の対象→保護者との連携、生徒指導提要「第5章教育相談・教育相談における保護者とのかかわり P110～」の解説
- ・「木を見て森を見ず」にならない指導方針→授業改革の必要性、生徒指導提要「第2章教育課程と生徒指導・教科における生徒指導の推進の在り方 P23～」の解説



学生の発表を受けた板書・模範回答する筆者

これらの補説の後に模範回答を伝授した。なお、場面指導を意識させる意図から2分半程度の内容とした。

一つ目は一人で問題を抱え込まず、チームで対応する重要性です。教科担任の授業中に起きた問題ということもあり、担任一人の問題ではありません。学年間の教師集団で問題内容や指導方針を共有し、上司からの指導をいただき、チームで対応する必要があります。生徒への聞き取りや対応は生徒指導主事もしくは学年主任の先生方など二人以上で行います。

二つ目は保護者との連携です。学校と家庭の両方で生徒を見守り支援していく必要があります。保護者には電話や家庭訪問で指導方針や対応した内容を伝えることで、信頼関係を構築し、学校だけで解決しようとしません。

三つ目は生徒全員が分かる授業や居場所のある授業をすることです。授業中にうるさくする生徒がBくんだけではないかもしれません。このタイミングを授業改革の絶好の機会としてとらえ、生徒指導だけの問題としてとらえず、授業から生徒の成長発達を支える授業改革に努める必要があります。

チーム対応の必要性には気づいている学生たちだが、生徒ABへの個別対応がどうあるべきかに固執し過ぎていた。さらに、保護者連携や授業改革の観点にまで発想が至らなかった。学生たちは、模範回答から今後の場面指導を構想する際に、学んだことの応用や構想のポイントの考慮の必要性を認識した。

②【第6回（場面指導②授業対応）】

授業前半は、生徒指導提要「第5章教育相談・第3節教育相談の進め方 P98～」を解説した。後半は、採用試験と実際に似通った状況で行わせたく、出題後5分間各自で構想、その後、代表者3名に2分程度の発表を行わせた。

課題（愛知県教採の過去問）は、学校行事としての避難訓練後における対応である。

避難訓練がありました。しかし、学級の中にまじめに取り組まなかった生徒がいました。あなたは担任として、避難訓練後の学級の時間に話をすることにしました。目の前に児童がいるつもりで話してください。

この場面指導の構想の3ポイントは以下の通りである。

- ・出題者の意図→やらされている行事（指示待ち）からやりたくなる行事（自主的）

- ・対応の対象→該当生徒を全体に広めずに学級全員へ
- ・「木を見て森を見ず」にならない指導方針→教師の反省と命を守る危機管理意識の高揚
代表者3名の発表概略は以下のようであった。
- ・ふざけてはいけない。部活の体験談として、たった1回のために練習した。練習があったからこそ本番ができた。それと同じ。冬はしっかりとやってほしい。
- ・東日本大震災の例と南海トラフに備える必要性から命を守る観点で話す。
- ・気になった生徒の状況を話し、「おはしも（押すな、走るな、喋るな、戻るな）」の説明をし、次回に期待していることを伝える。

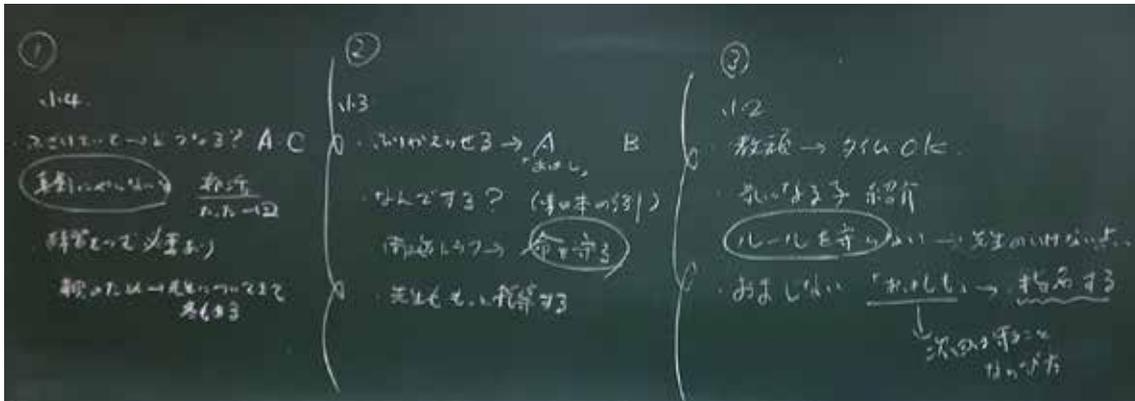
3名とも個人を特定させる内容ではなく、クラス全員へ論しながら次回への期待を伝える内容であった。生徒の心理環境的背景にある「やらされている活動」のメッセージはふまえていた。また、具体例を紹介しながら説得力のある内容に仕上げていることに感心した。その後、構想の3ポイントを解説し、模範回答を2分半前後で伝授した。

避難訓練のみなさんの様子を見て、先生は反省しました。それは、避難訓練の実施前に命を守るための訓練の必要性をしっかりと伝えておけばよかったということです。避難訓練をやらされている活動からやりたくなる活動にしなければなりません。東日本大震災の津波から必死に逃げる方々の姿を思い起こすたびに、いつか来る南海トラフ巨大地震に備え、日頃から危機管理意識を高め「おはしも」を守った行動がとれるように自分も、そしてみなさんもそうさせたい。先生もみんなも同じように命を守りたいのです。

このような話を実施前にしておかなかったことに自戒し、命を守るための避難訓練、自らやりたくなる避難訓練にさせるべきでした。避難する態度が悪かった子がいましたが、その態度が1分1秒を争う場面では安全な避難ができないかもしれません。一人の問題ではなく全体の問題としてとらえたいです。先生の反省は今週のクラスだよりで紹介するので、避難訓練への思いやそれを読んだ感想を先生に伝えてくれると嬉しいです。

説教というものは上から目線で、生徒たちの心に響く内容にならないことが多い。指導者は生徒を下から持ち上げる指導観がないと、やらされている感が強くなりがちである。先生も間違ったり反省したりすることを伝えることが、生徒の心に響きやすいと考えている。それも生徒指導の指導方法のひとつではないだろうか。全体の場で一部の生徒への説

教をすることは、その生徒だけでなく、他の生徒の教師への不信感につながりかねない。模範回答は、該当生徒の指導よりも生徒全員の危機管理意識をもつ必要性和自主的に学校行事に取り組む姿勢の大切さを伝授する内容とした。



代表者3名の発表を聞き取った板書

③【第7回（場面指導③進路対応）】

授業前半は、生徒指導提要「第2章教育課程と生徒指導・第1節教科における生徒指導P23～」を解説した。後半は、各自で構想させ、その後は代表者の発表を行った。今回はより具体的な場面を設定（指導学年、指導場面）させることにした。また、発表中に生徒を指名して意見を聞きながら展開する方法もあることを伝え、構想パターンとすることを薦めた。それが、学年の指定→指導場面の指定→問題点の指摘→生徒指名で意見の傾聴→問題解決の方向性という順番である。

それを参考に、授業妨害をした生徒対応の課題（愛知県教採過去問）に取り組ませた。

あなたが担任する学級の授業中、生徒Aが「こんな勉強したって、将来何の役にもたないじゃないか！」と、教室の全員に聞き取れる声で言い出しました。

あなたは授業をしている担任として、それを受け、その場で全体に話すことにしました。どのように対応しますか。目の前に生徒がいるつもりで話をしなさい。

この場面指導の構想の3ポイントを以下のように考えた。

- ・ 出題者の意図→教育相談のカウンセリング手法
- ・ 対応の対象→授業中に学習を中断して全員への対応
- ・ 「木を見て森を見ず」にならない指導方針→学びと生涯学習の意味

代表者4名の発表は次の通りである。

- ・ 高校2年、歴史の授業中→勉強は何のためにするのかを生徒に問いかける。自分の進路選択のために今は我慢して勉強をする時期だ。
- ・ 高校2年、数学の授業中→自分も同じ思いをしていたから気持ちが分かる。学ぶことに意味がある。進路決定に役立つので勉強をする。
- ・ 高校1年、簿記の授業中→高校生の頃同じ思いだった。友達に頼られることが嬉しい。学びは社会にも役立つ。自分から行動できる人になろう。
- ・ 高校2年、情報の授業中→学びの意味を生徒に問いかける。先生も答えが分からないと話す。将来、勉強が意味のあるものになるように、今は頑張ろう。

4名の発表者は、構想の3ポイントを生かしながら発表をした。発表の中で生徒を指名し、その意見を取り入れた発表をした学生もいて、場面指導に慣れてきたと感じた。特に生徒の考えに共感した点を褒め、授業の中断を問題視する模範回答を伝授した。

ちょっと手を休めて先生の話聞いてくれますか。いまAくんが「こんな勉強したって、将来何の役にたないじゃないか！」と言った内容は、確かに考えさせられることです。Bさんはどう思いますか。(問)「いつか役立つためにいま勉強している」。これも正解だと思います。Cくんはどうですか。(問)「我慢することも勉強のひとつだし、頭を鍛えるために意味の分からない勉強も必要」。これまた素晴らしい考えだと思います。

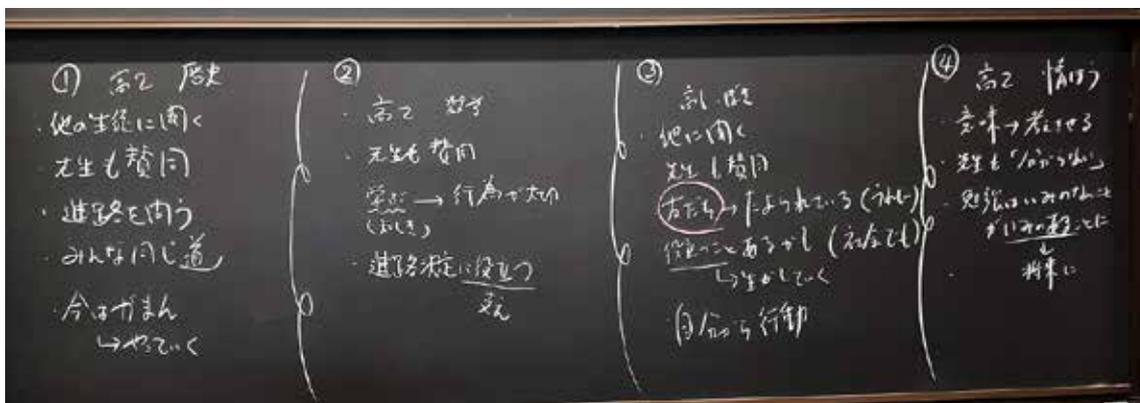
先生の考えは、学校で勉強するという事は知識だけを学ぶのではなく、皆と共に学び合うのが学校での勉強の姿だと思います。単に知識の詰め込みなら一人で学ばばよいですが、皆で学び合うよさが学校にはあります。そして、知識が増えれば、広い視野で世の中を見つめることができ、将来の進路選択の幅が広がることにも通じますね。

でもねAくん！ いまは授業中だから勉強に関係ない発言や相談は授業後に先生に話してくれるかな。勉強をしたい子もいるからね。休み時間や放課後であれば、先生もAくんの悩みに時間を気にせずに話したり相談したりすることができます。じゃ勉強に戻りますね。

この指導でも、生徒批判でなく共感的人間関係の構築をし、悩みを共有し傾聴するカウンセリング手法を全体指導で行うことである。授業妨害と思える発言を許さない姿勢も「授業後に」と時と場の必要性を論ず。生徒の考えに共感し、「共に学び合うのが学校」と

「進路選択の幅を広げる」という持論も加え、構想の3ポイントを生かした模範回答とした。

④【第14回（場面指導④いじめ対応）】



代表者4名の発表を聞き取った板書

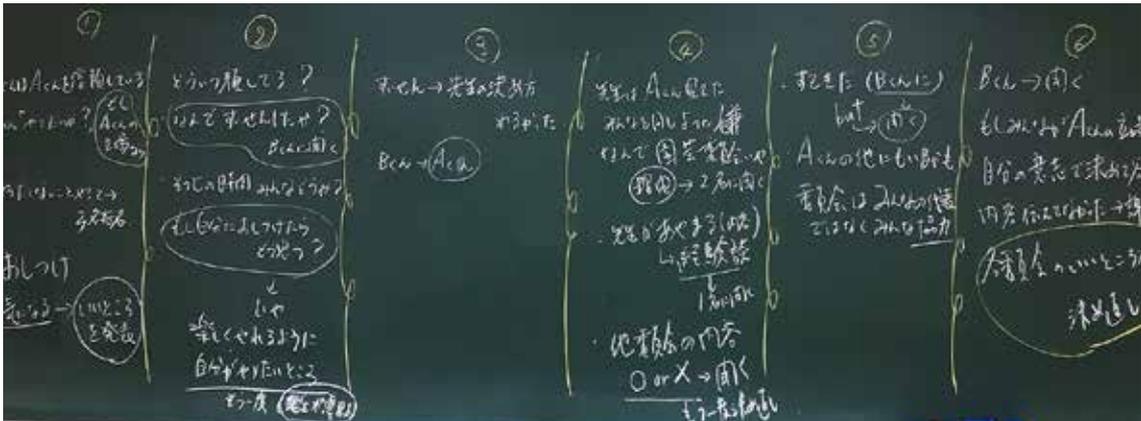
授業前半は、生徒指導提要「第6章生徒指導の進め方・II 個別の課題を抱える児童生徒への指導・第6節いじめ P173～」を解説し、いじめ防止対策推進法の内容と保護者との連携を確認した。後半は、前回の回答マニュアルと構想の3ポイントを参考にさせ、場面設定は、中学校2年生、学級活動の委員会決りを想定して実施することにした。

課題（愛知県教採過去問）は委員会決めにおけるいじめ対応である。

あなたが担任する学級で、委員会決めの際、立候補者が誰もいない委員会に、口数の少ないおとなしいAくんがBくんから推薦されました。Aくんはとても嫌そうな顔をしていましたが、他の子どもたちもそれに賛同し、Aくんに決定しました。あなたは担任としてこの決定にどう対応しますか。目の前に子どもがいるつもりで話をしてください。

この場面指導の構想の3ポイントは以下の通りとした。

- ・ 出題者の意図→いじめとしてとらえた指導の展開
 - ・ 対応の対象→当該生徒双方の意見や考えを聞き、それを全体で共有
 - ・ 「木を見て森を見ず」にならない指導方針→気づかないいじめの種、いじめの未然防止
- 6名の発表者の内容は以下の通りである。（写真の左から順に）
- ・ Aくんにやりたい意思があるか問いかけ、やりたくないことを押しつけられる気持ちを3名の生徒に尋ねる。その子のよいところを見つけるように生活すること。
 - ・ なぜ推薦したかをBくんに聞く。自分が押しつけられたらどう思うか考えさせ、教師



代表者6名の発表を聞き取った板書

の不手際を詫びてから、再度決め直しをさせる。

- ・教師の決めさせ方が悪かったことを詫び、BくんがAくんをなぜ推薦したかを聞く。
- ・教師の嫌なことをさせられた経験談を語る。各委員会のよさを再認識させ、どうすればよいか問いかけ、決め直しさせる。
- ・委員会に必要な協力性を話し、Aくん以外にやれる人がいるかもしれないと伝える。
- ・Aくんの立場になって考えさせ、決め方のまずさを詫び、決め直しをさせる。

6名のキーワードは、「決め直し、教師の決め方に対する配慮のなさの反省、Aくんの立場になって考える」であり、構想の3ポイントを生かす発表内容であった。中でも4番目の学生は、教育相談で用いるカウンセリング手法「自己解決を促す」を応用し、「どうすればよいか」と生徒に問いかけ、決め直しを納得させた。現場の教師でもなかなかできないであろう手法を全体へ紹介し称賛した。

場面指導としての事例検討も4回目ということもあり、学生たちの発表に落ち着きを感じた。学修内容の応用と構想の3ポイントを生かした発表だったからである。そこには教師になった場面を想定し、自己指導能力を高めようと努めている学生たちの姿があった。それぞれ構想のすばらしさと堂々とした発表態度を認め、模範回答を行う必要性がないことを伝え、4回的事例検討として取り入れた場面指導を終えた。

4 学生のアンケート調査の結果と分析

(1) 名城公園キャンパス (10名・3年2名、2年8名) のアンケート結果

15回の授業を終えたアンケートは、筆者の授業改善、回答内容は授業の成績と無関係、提出は任意、という3点を学生に伝えて実施したものである。

①場面指導は授業内容を理解する上でどうであったか。

場面指導は授業内容を理解する上で	人数	%
大変役立った	9	90
役立った	1	10
少しは役立った	0	0
役立たなかった	0	0

【「大変役立った」と回答した主な理由】

- ・理論をどう活かせるか、それを実践することでより定着させることができた。
- ・モンスターペアレントに対しては、学校全体で対応することが分かった。

【「役立った」と回答した理由】

- ・場面指導をどのようにやるのかが少し分かったから。

②他学生の場面指導の発表はどうであったか。

他学生の発表は	人数	%
大変役立った	9	90
役立った	1	10
少しは役立った	0	0
役立たなかった	0	0

【「大変役立った」と回答した主な理由】

- ・自分とは違った視点で指導することも吸収することができた。

【「役立った」と回答した理由】

- ・自分とは違う意見があることを聞くことができたから。

③場面指導を発表してみてどうであったか。

場面指導を発表してみて	人数	%
大変役立った	9	90
役立った	1	10
少しは役立った	0	0
役立たなかった	0	0

【「大変役立った」と回答した主な理由】

- ・自分の意見を数分でまとめることの難しさを知ることができた。
- ・たくさんの人の前で練習したことで、本番に緊張しにくくなったと思った。

・人前で話すことが他の授業ではあまりないから。

【「役立った」と回答した理由】

・人前で話すことが苦手だけれど、少しずつ慣れて、本番でも生かせると思った。

(2) アンケート結果を受けて

3つの項目とも「大変役立った」と「役立った」の合計は、100%であったことから、仮説の正当性を裏付ける根拠となった。着目したいのが、「役立った」と回答した1名の理由である。「場面指導の理解」「異なった意見の傾聴」「苦手意識の克服」という自己指導能力を高めるのに役立てようとしたことが分かる。場面指導を事例検討として位置づけ、発表という形式を授業に取り入れたことは、他の発表者の構想や内容から自分の構想や発表を見つめ直し、自分では気づけなかった視点を参考にし、さらに自己指導能力を高めたい心情からの回答であったと考える。つまり、大変か大変でないかという基準判断は主観に左右されるが、「大変役立った」と回答した学生の理由と同じ趣旨の内容ととらえることができ、場面指導は授業効果を高めたと判断できる。

5 実践を終えた検証

(1) 仮説の検証

【学修内容の定着と応用を図ることができたか】

学習内容の定着と応用については、生徒機能3観点（自己存在感、共感的人間関係、自己決定の場）の意識、生徒指導提要で学んだ内容の見直し、一人で問題を抱えこまない、教育相談のカウンセリング手法の応用などを場面指導の構想の際に考慮し、構想の3ポイントを常に意識することを助言した。以下に紹介する15回の授業を終えた経営学部経営学科2年Tの授業感想（場面指導を振り返った箇所）を検証する。

事例検討では、共感・自己存在感、自己決定の3つが重要であると学びました。初めて皆の前で発表したとき、3つのポイントに気を付けましたが、すごく緊張しまして何を言っているのか分からなくなりました。しかし、今では少し改善できたと思います。

「共感・自己存在感、自己決定の3つが重要」という講義で学んだポイントを生かし、「3ポイントに気を付けました」という構想のマニュアル化を図るようになってきたことが分かる。

また、次に紹介する経営学部経営学科3年Hの授業感想（場面指導を振り返った箇所）を検証する。

場面指導を取り込んだ内容は、教採に役立つことで、とてもありがたかったです。授業のフィードバックや発表の良かった点などを教えてくださり、今後の自分の課題になることが分かりました。

「フィードバックや発表の良かった点などを教えてくださり、今後の自分の課題」から講義の学びをフィードバックし、今後の自分の課題としたことから、学修内容の定着を図る重要性や、自己指導能力を高めなければならない課題に気づいている。

二人の学生の記録から、場面指導を授業に取り入れたことで、知識としてある学修内容を応用し、教師になったことを想定して表現することができるようになったと考える。よって、学修内容の定着と応用を図ることができたという結論に至った。

【自己指導能力を高めることができたか】

自己指導能力を高めるために、自分で気づけなかった視点をグループ討議で共に学び合うことから見つける、学びを生かし指導者への自信へつなげること、構想の3ポイントをマニュアル化して構想するように指導を重ねた。

以下に紹介する15回の授業を終えた経営学部経営学科2年Tの授業感想（場面指導を振り返った箇所）では、自信へのステップになった（下線部）ことが検証できる。

最初は何を言えばよいのか分からないし、他の学生の前で話すのは嫌だった。それが何度も考えるうちに、緊張はするが頑張れるようになった。生徒機能3観点を取り入れて話す内容を考えると、話の展開を考えやすくなった。また、他の学生の話聞くことで、新しい考え方や発想に触れることができ、共に学び合うことができた。まだまだ不十分なことばかりであり、今後も学習を続けていかねばならないと思う。

この記録から、今後も自己指導能力を高めようとする前向きな態度が分かる。しかし、仮説の「自己指導能力を高めることができる」を達成したとは言い難いと判断するが、自己指導能力を高めるきっかけにはなったと考える。よって、二つ目の仮説「自己指導能力を高めることができる」は「自己指導能力を高めようとする態度を育成できる」に修正すべきであったという結論に至った。

(2) 今後の課題

今後の課題について、以下に紹介する15回の授業を終えた法学部法律学科2年Gの授業感想（場面指導を振り返った箇所）の抜粋から今後の課題を述べる。

場面指導はとてもよい経験になりました。人前に立つと自分が言いたいことがよく分からなくなり、頭が真っ白になって焦りました。教員の言葉によって生徒の進路が変わるような場面があったとき、どんな言葉をかけるのが正解なのか、すごく悩みました。まだまだ自分には経験が足りないなと思いました。

人前で場面指導をする際、「頭が真っ白になって焦りました」と「すごく悩みました」という学生に対して、ふさわしい教師支援のあり方を決めておく必要があった。また、「経験が足りない」という個所から場面指導を積み重ねて練習する重要性に気づいていることが分かる。そのことから、授業外学修に場面指導の課題を加える必要があったと反省している。「場面指導の実施中に焦った態度が見える学生への教師支援」と「経験不足」の2点が今後の課題となった。

この2点の課題を受け、来年度に授業を担当する場合には、以下の2点を改善点としたい。

- ・場面指導を実施している際に、「悩んだり何を話せばよいのか分からなくなったりした学生には、構想の3ポイント（出題の意図、対応の対象、「木を見て森を見ず」にならない指導方針）を再度問いかけ、考え直す時間を与える。
- ・授業外学修の復習に「場面指導の課題」を加え、考慮させる十分な時間をかけさせて、構想を何度も推敲させて、発表内容に自信をもたせる。

おわりに

教科書として使用する生徒指導提要が12年ぶりに昨年末改訂された。特定の児童生徒に焦点化した事後指導中心の生徒指導から、日常の教育活動を通じてすべての児童生徒の成長や発達を支える生徒指導への方向転換が図られた。教採で実施されている場面指導において「目の前に児童生徒がいると想定して、全体へ話してください」というすべての児童生徒を意識した出題の仕方からも、生徒指導提要の改訂方針と合致した出題の仕方ではないかととらえている。

教職課程を履修する学生たちにとって、日ごろから自分が教師になった場合を想定し、

様々な生徒・進路指導の場面で自分の考えや対応の仕方などの構築を積み重ねていく必要がある。それを感じることもできるひとつとしてあるのが、場面指導ではないだろうか。今後も「生徒・進路指導論」を担当することがあれば、授業内で場面指導を事例検討として位置づけていきたい。

最後に、二人の教え子から場面指導について再認識した「場面指導の有利・不利」を紹介する。本学を卒業して3年目の学生二人と卒業後もつながりがあり、教採の支援を行ってきた。令和4年度の愛知県教員採用試験で高校地歴と中学英語にそれぞれ合格した。教え子が正規採用されて教壇に立つと思うと、教師冥利に尽き嬉しかった。しかし、彼らへの指導をするたびに、卒業生と現役生との場面指導の内容と発表態度に大きな格差を痛感した。現場で講師をしている二人には、場面指導の内容や発表態度への指導や助言はほとんど必要がなかった。場面指導は現場で経験のある講師にとって日常であり、日ごろから生徒の前で話していることであり有利である。つまり、教育現場に携わっていない学生には不利ということである。だからこそ、学生には堂々と話すことのできる自信をつけさせることが必要であると再認識した。しかし、彼らは彼らなりに「場面指導のアドバイスは、新たな視点に気づくヒントとなりました」と、現場の講師でありながらも学び続けようとする態度に好感を抱く。4月から素敵な新任教師として活躍してくれる二人にエールを贈りたい。

採用試験の試験官に「この学生を現場にほしい」と思わせる学生、教育に対して情熱的でロマンのある学生を育成していきたい。そんな思いを胸に、来年度に担当する科目において、微力ではあるが教職履修をする本学の学生のために尽くしていく覚悟である。

引用文献

共同出版・教員採用試験過去問シリーズ（2023年度版）名古屋市、岐阜県、三重県

参考文献

生徒指導提要（平成22年3月）文部科学省